

7年前の夏、息子が腹痛を訴え病院に担ぎ込まれた。

何事が起こったのか分からないまま「バーキッドリンパ腫」とがん告知を受けた。「大変珍しく予後の悪い病気ですから・・・」先生の言葉に答えが怖くて質問も出来なかった。

17才になったばかりの息子に絶望的な告知が出来ないまま、手術・抗がん剤と治療は始まった。もっと小さな子どもなら、抱きしめて、撫でてさすって上げられるのに、多感な年頃の息子は「大丈夫だから、あっちに行つて」と、そんなことさえさせてくれなかった。

抱えた大きな悲しみや不安をどこへ持って行けば良いのか・・・情報を探し続けたが明るい物は一つも無かった。

そんなある日、がん患者の妻である友人が「がん患者の会」の存在を教えてくれ、治療を受けている病院に関係なくがん患者と家族であれば誰でも参加出来るから入会しないかと誘ってくれた。


藁をも掴む思いで直ぐに入会した。今でも、古くからの会員が集まると「会の最初から最後までズ～ットまあ良く泣いてたな～」と笑われるが、その頃の私には「がん患者の会」だけが泣いても良い場所だった。

私の悲しみを皆が分かってくれた、自分のことのように考えてくれた、心を開くと掬ってくれた。私は「がん患者の会」が大好きだった。

「あと3ヶ月・・・」と言われた息子は24才になり元気に通勤している。「諦めてはいけない！今日を頑張れば明日明るい知らせが聞けるかも知れないよ」と教えてくれた患者会の皆に出会えたことが私の毎日を変えた。恩返しのつもりで今は私が「がん患者サロン」で世話人をしている。

同じ患者や家族だから分かる思い、がんと向き合う心構え、がんと上手に付き合う方法、参加された患者さんや家族さんの言葉に耳を傾ける。

「がん患者サロン」は気付きの場、大切なことを見つけに来てほしい。



竹生島